

# 8月

みんなくウィークエンド・サロン

## 研究者と話そう

■ 14時30分から15時30分

■ 展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんでん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

4日

(日曜日)

話者：韓敏（国立民族学博物館 教授）  
話題：家系図でつながる人びと  
会場：本館展示場（東南アジア横休憩所）

11日

(日曜日)

話者：山本泰則（国立民族学博物館 准教授）  
話題：梅村忠夫著作目録データベースの引越越し  
会場：本館展示場（ナビひろば）

18日

(日曜日)

話者：浜田明範（国立民族学博物館 機関研究員）  
話題：ガーナの病気と医療  
会場：本館展示場（ナビひろば）

25日

(日曜日)

話者：伊藤敦規（国立民族学博物館 助教）  
話題：米国先住民ホビのソーシャルダンス  
会場：本館展示場（ナビひろば）

### 1年間みんなくに何度でも入館できる「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

### 編集後記

みんなくを知らない人にわたしの仕事を説明する際、まどろっこしいな、といつも思う。「研究活動と博物館活動を一体的におこなう博物館をもった研究所」で働いているのです、とパンフレットに準じて言ったところで、一般の人にはやはりわかりにくいと思う。肩書きは准教授で、館内では先生とよばれるがここは大学ではない（でも大学院があって、学生もいる）。本業は「研究者」で、「研究室」もあり、論文や本を書くことが研究業績になるのだが、日常的には展示や博物館広報の業務に明け暮れている（小誌の編集もその一端）。

要するにみんなくは、ハイブリッドな機関なのである。研究と博物館業務は、異なる作業ではあるが決して矛盾していない。研究の成果を文字だけでなく、モノの展示を通して立体的に見せ、さらに音楽や創作などの体験を介してさまざまな地域・民族・時代の世界観を伝えるには想像力と忍耐力を要するが、その「創造的合成」の現場はじつは楽しいのである。

しかし体力も時間も限られているだけに、そのふたつの要素のバランスがなかなか難しい。（山中由里子）

●表紙 手桶 標本番号：H0106663

日本、京都府 大徳寺より寄贈

市販の手桶の下部に真ちゅう製の蛇口がとりつけてあるところにハイブリッド感がただよう。

次号の予告

特集

## 美麗島——台湾

月刊みんなく 2013年8月号

第37巻第8号通巻第431号 2013年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉桂穂

編集委員 山中由里子（編集長） 櫻永真佐夫 久保正敏

庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 野林厚志

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一欒

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

### 交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。

●阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなくフェイスブックページ

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

